



2023年度 akta活動報告会

2024

6.23日

15:00~16:00

場所：コミュニティセンター akta

特定非営利活動法人akta

所在地

〒160-0022
東京都新宿区新宿二丁目15番
13号 第二中江ビル302号室

電話番号

03-6380-0833 (木曜～日曜
16時～22時)

FAX番号

03-6380-0575

代表者 理事長

岩橋恒太

設立

2012年6月1日

役職者

※2024年6月1日現在

理事
(理事長) 岩橋恒太

理事 荒木順

理事 江島啓介

理事 柴田恵

理事 木南拓也

監事 市川誠一

aktaはアジア最大といわれる、ゲイバーや商業施設が連なる新宿2丁目を拠点にCommunity Based Organizationとして活動します。

ビジョン

私たちの活動は、全ての人がHIVとともに生きているという視点から、多様なセクシュアリティと性の健康の認知と理解をはかり、だれもが自分らしく暮らせる街づくりに寄与することを目的とします。

コミュニティの中からコミュニティに向けて

aktaの考える日本のHIV/AIDSの課題

【治療・人権】差別・偏見ゼロ

U=UとLiving Togetherにより、
コミュニティと社会全体のスティグマ
をなくす

【検査】AIDS発症をゼロ

HIV検査の実施体制と選択肢の強化

【予防】新規HIV感染ゼロ

HIV感染予防に対する啓発の
推進とPrEP・選択肢の拡充



AIDS流行終結に向けたロードマップ

2025年、2030年のターゲットに向け、**日本国内で高速対応が必要**

2023年

- エイズ予防指針の改定
- 郵送検査キットの使用拡充に関する検討

2024年

- **日本エイズ学会**
学術集会 大会
長をakta岩橋が
担当(11/28-30・新宿)
-  **日本エイズ学会**
The Japanese Society for AIDS Research
- PrEPの薬事承認
- 予防指針の改正

2025年

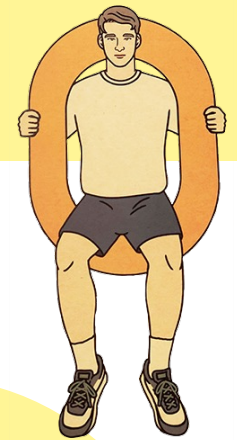
- UNAIDS・WHO
95-95-95ター
ゲット(診断
95%-治療開始
95%-検出限界
未満95%)の期
限

2030年

- UNAIDS・
WHO 世界で
のAIDS流行
終結の実現

日本が、**世界で初めてのAIDS流行終結を迎える国**となることを目指します

— 2023年度のポイント —



3つのゼロ（新規感染のゼロ・エイズ発症のゼロ・差別偏見のゼロ）達成に向けて取り組んだプログラム。

新規感染のゼロ

SUMMER BLAST での調査

性の健康に関するコミュニティ調査アンケートの実施！



エイズ発症のゼロ

ヤローページの発行

上野浅草のバーMAPと一緒にHIV・性感染症検査が受けられる検査場を紹介！



デジタルディスペンサー

HIVcheck.jp の開発

郵送検査キット販売に向けたディスペンサーの開発準備

差別偏見のゼロ

UPDATE HIV フロートへの参加

HIV陽性当事者が“WE ARE POSITIVE”のフラッグを掲げてパレードへ参加！



AGARTHA 3ゼロキャンペーン

世界エイズデーに、日本最大級ゲイパーティにて3ゼロ啓発グッズを配布！レッドリボンを身に付けて遊ぶ光景！



安定的なセンター利用と、アウトリーチ活動に向けた取り組みを行なった。





1

community center akta

-HIV/AIDSの総合的な情報の集約と発信



コミュニティセンターakta スタッフ紹介



NPO.akta
理事長



ともひろ

名前、勤務曜日に加え、以下のいずれかを一言。

- ① 今年頑張りたいこと（課題など）
- ② 昨年度の関わりを経て感じたこと
（気づき、発見、感想など）
- ③ 自己PR or これだけは負けない私の特技



主な勤務日：木金日



- ・汗の量がすごい！
- ・早寝早起きが好き



あくた
くん

コミュニティセンター akta

スタッフ：常勤3人、非常勤5人、ボランティア：140人

東京都新宿区新宿2-15-13第2中江ビル301

開館時間：15:00 - 21:00 (月・火・水曜, 年末年始除く)

約300軒の商業施設が密集するアジア最大のゲイタウン
“新宿2丁目”でコミュニティの中から、
コミュニティに向けて普及啓発。

2023年度「同性愛者等向けコミュニティセンターを活用した広報等
一式事業（厚生労働省委託事業）」を公益財団法人エイズ予防財団
が受託し、新宿区新宿二丁目にあるセンターの運営をaktaが行って
いる。



(2023年4月から2024年3月まで)

総来場者：3,730人 (前年度比134.22%)

初来場者：1,231人 (前年度比116.13%)

稼働日：206日

相談件数：60件

(うち、セクシュアルヘルスに関する相談：31件)

(2003年9月から2024年3月まで)

累計来場者数：137,866人

掘るスコープ2展 4月27日～5月14日

akta活動報告会 & 設立20周年記念レセプション 6月18日

SUMMER BLAST 7月15日

新宿二丁目ワンコイン検査 10月18日

にちよけっと出張展示会 7月1日～7月15日

カレーフェスタの逆襲 11月19日

設立20周年記念「GO 20'NEXT展」 1月26日～3月31日

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来場者数	232	163	369	414	239	310	295	410	293	290	334	381	3730
初来場者	75	50	88	189	63	100	116	173	87	88	113	89	1231
相談件数	3	7	4	8	6	5	4	2	5	4	7	5	60

LGBTQの健康に関わる最新研究の勉強会 7月20日

NORAミーティング 8月5日

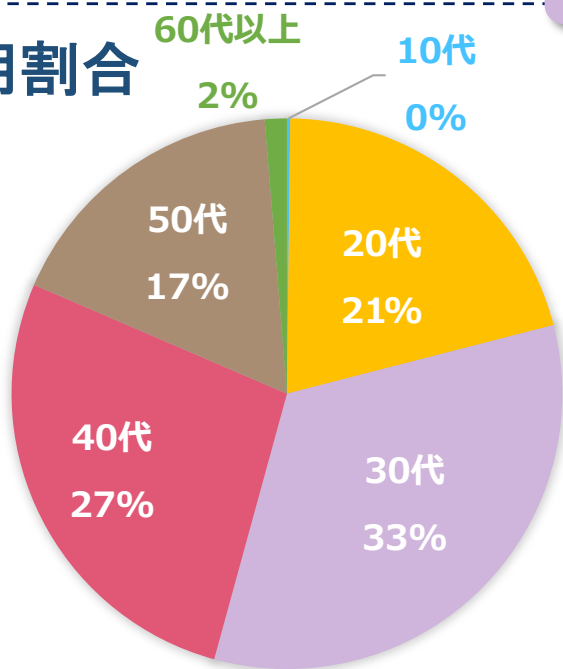
資料保存の記録 2021-大学生編展 9月28日～10月22日

S.オニクボ写真展 11月3日 - 11月25日

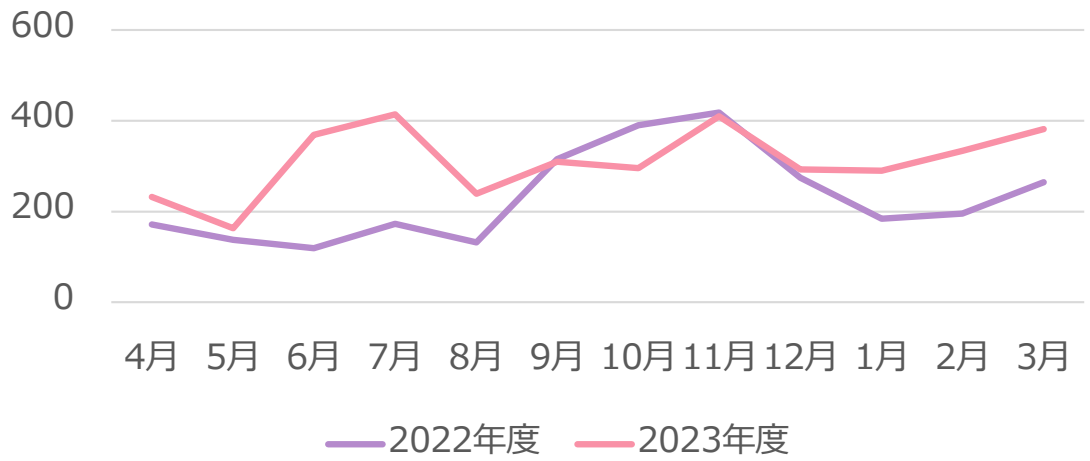
WE ARE POSITIVE展 12月15日～12月24日

シルクスクリーンワークショップ 3月29日～3月31日

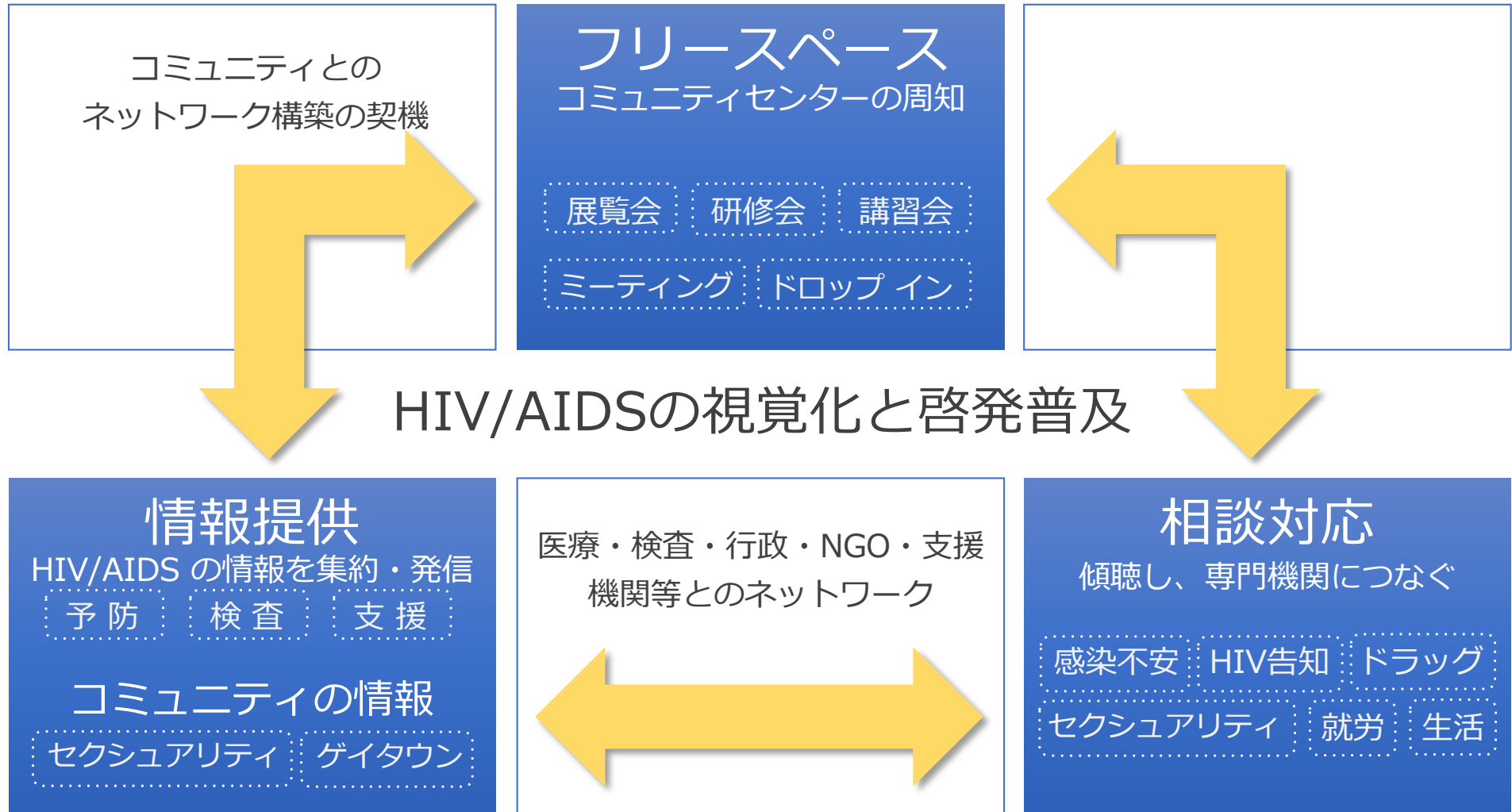
利用割合



来場者数 年度比



コミュニティセンターの機能



MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営

新規来場者を増やして、情報にアクセスする機会を提供する

展覧会

コロナの影響で減少したイベントや展示の開催機会を増やし、来場者獲得に努めた。



ほるスコープ2展
4月27日(木)-5月14日(日)
来場者数：105人



**資料保存の記録
2021-2023
大学生編**

9月28日(木)-10月22日(日)
来場者数：75人



にちよけつと出張展示
7月1日(土)-7月16日(日)
来場者数：188人



**S.オニクボ写真展
「ダイコンと私と
しろうるり1.2」**

11月3日(金)-11月25日(土)
来場者数：183人

No IMAGE

アーカイヴリサーチラボ
8月10日(木)-8月13日(日)
来場者数：23人



WE ARE POSITIVE展
12月15日(金)-12月24日(日)
来場者数：74人

**akta設立20周年記念展示
「GO 20'NEXT! aktaのこれまで、これから展」**
1月27日(土)-3月31日(日)

来場者数：428人



aktaの活動・HIV関連の歴史・
ゲイカルチャーの3軸が振り返れる年表展示。

参加型の展示として、来場者にもフラッグや付箋で年表に情報の追加や思い出、当事者の生の声等を追加してもらった。

MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営

新規来場者を増やして、情報にアクセスする機会を提供する

講座・MTG・イベント



アーカイブを作ろう 対象年齢：若年層	新宿読書会 対象年齢：若年層	集まるクィアの会 対象年齢：全般
NORAミーティング 対象年齢：中高年層	クィアひるまのいま 対象年齢：若年層	中国のHIVIについて学ぶ 対象年齢：全般
ZINE制作交換会 対象年齢：全般	ロールプレイング会 対象年齢：若年層	性的同意とバウンダリー 対象年齢：全般
LGBTQ版エンディングノートを作ろう 対象年齢：高年層	ゲイのための終活セミナー 対象年齢：高年層	作品から考えるパートナーシップの在り方 対象年齢：全般

カフェ



akta
カレーフェスタの逆襲
対象年齢：若年層

プログラムの目的：
若年層へaktaの利用を提案し、community centerへの新規来場者を誘致する。またコミュニティ内で影響力のある商業施設キーパーソン参加により、認知向上とコミュニティとの関係構築を図る。



結果：54名来場

新規スタッフ主導イベント



・2023年4月よりaktaで一緒に働く事となった新規スタッフによるイベント企画。

akta Game Saturday

対象年齢：若年層

akta English Cafe

対象年齢：全般



- ・定期的なマンスリーイベントの復活や、新しい薬物依存自助グループミーティングの開始などが特徴的。
- ・その他、各種見学対応（大学、行政、日本国内～海外等の他団体）としてaktaへの訪問があった。

akta talk show

(東京都委託事業)

プログラムの目的：コミュニティへの情報共有、意見交換、普及啓発および専門家とのネットワーキング
対象なる人や施設：コミュニティの人たち、商業施設のオーナーやスタッフ、aktaボランティアスタッフ
HIVに関連した活動をしている人たち、LGBTQ+

実施内容：

LGBTQ+の健康に関する最新研究の勉強会



①4月20日(木)
「LGBTQ+の生育歴とメンタルヘルス-全国インターネット調査の結果から」
出演者：日高 庸晴 (宝塚大学)
コメンテーター：ラビアナ・ジョロー (ドラァグクィーン)

参加者オフライン6名/オンライン20名



②7月20日(木)
「HIV感染症診断時のCD4値 - 薬剤耐性HIV調査ネットワークの結果から」
出演者：菊池 正 (国立感染症研究所 エイズ研究センター)
コメンテーター：中澤 よう子 (ベテラン公衆衛生医)

参加者オフライン15名/オンライン23名



③10月20日(金)
「エイズ予防指針にトランスジェンダーを明記せよ」
出演者：宮田 りりい (関西大学 人権問題研究室)
コメンテーター：金子 典代(名古屋市立大学)

参加者オフライン12名/オンライン21名



④3月14日(木)
「性的接触ネットワークと世界的流行におけるエムボックスの疫学」
出演者：遠藤 彰 (シンガポール国立大学公衆衛生大学院)
コメンテーター：石金 正裕 (国立国際医療研究センター 国際感染症センター)

参加者オフライン3名/オンライン14名



2

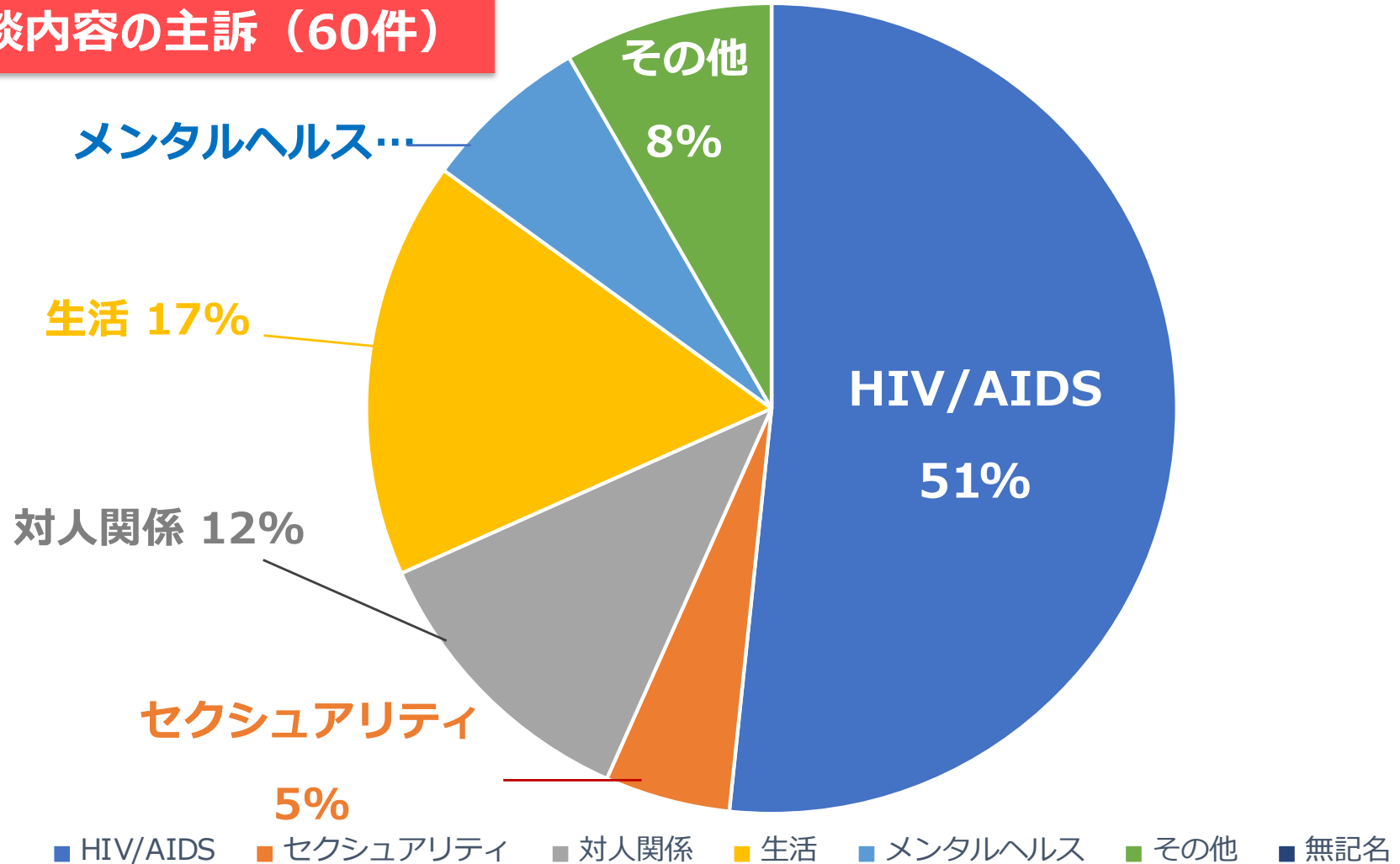
相談対応

相談対応

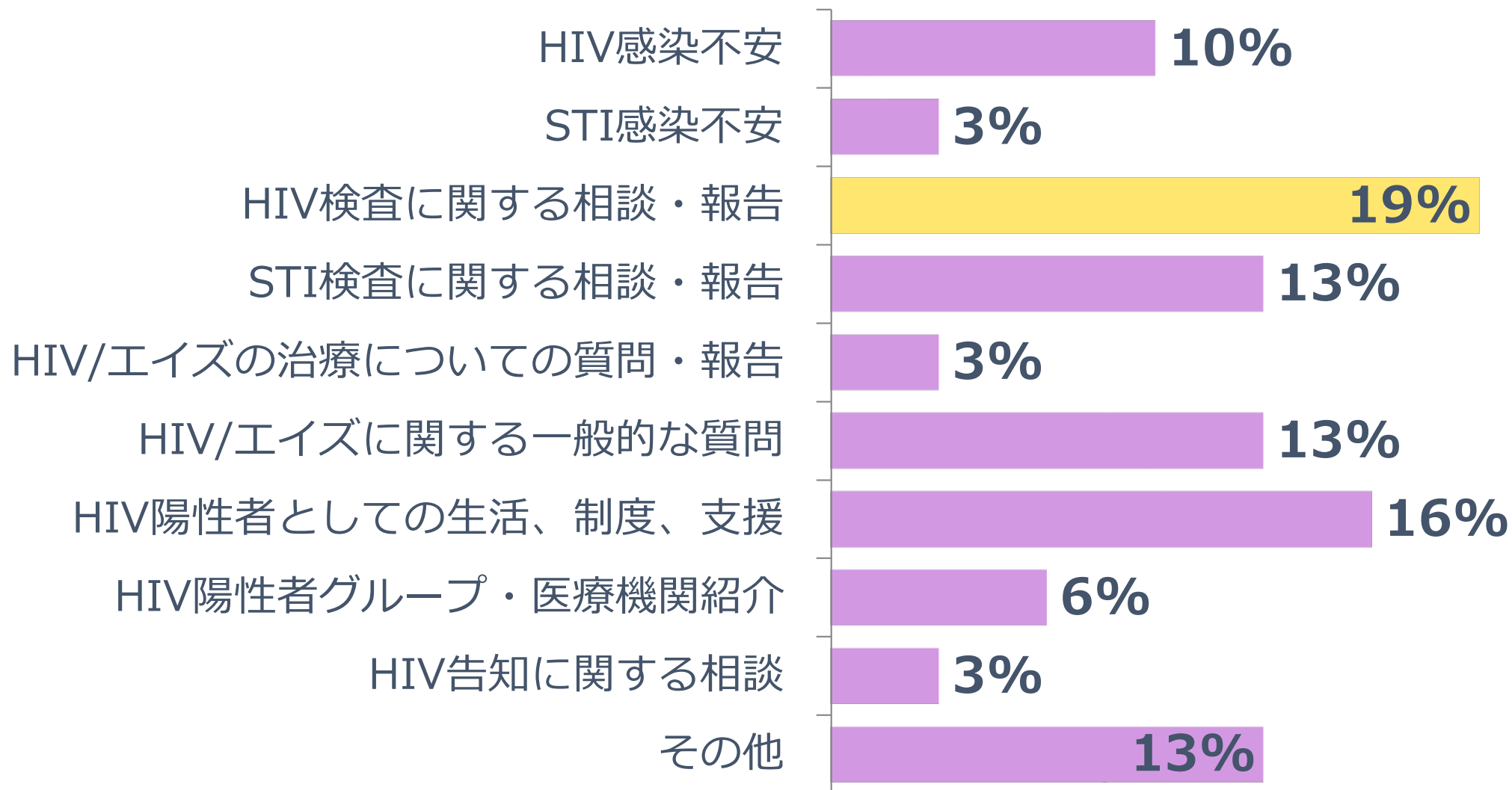
セクシュアリティに理解のあるスタッフが
オープンスペースで対応し、支援リソースへつなぐ。

無記名 0%

相談内容の主訴 (60件)



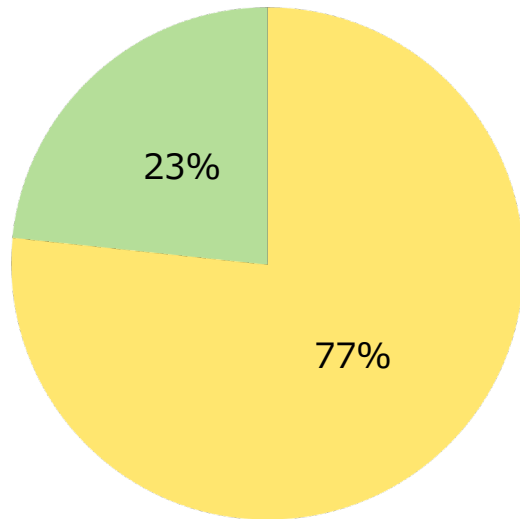
HIV/エイズに関する相談の主訴 (31件の内訳)



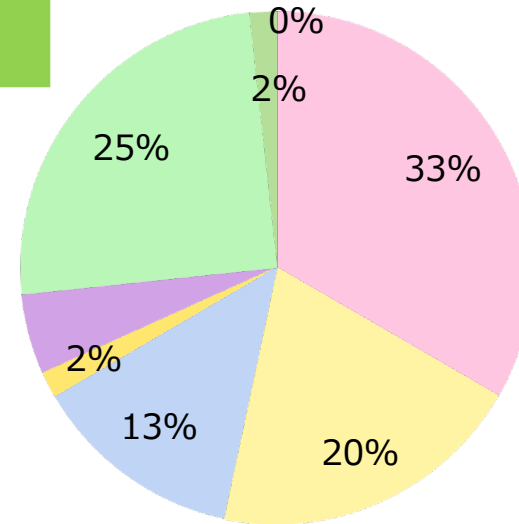
相談者の属性

セクシュアリティ

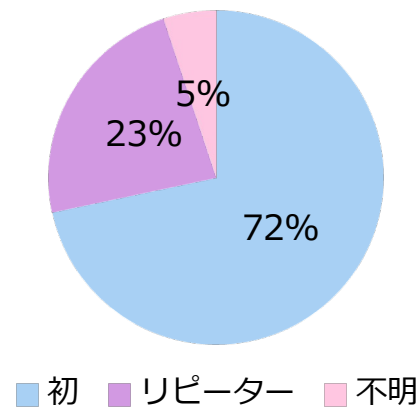
■ ゲイ・バイセクシュアル/MSM ■ その他



居住地

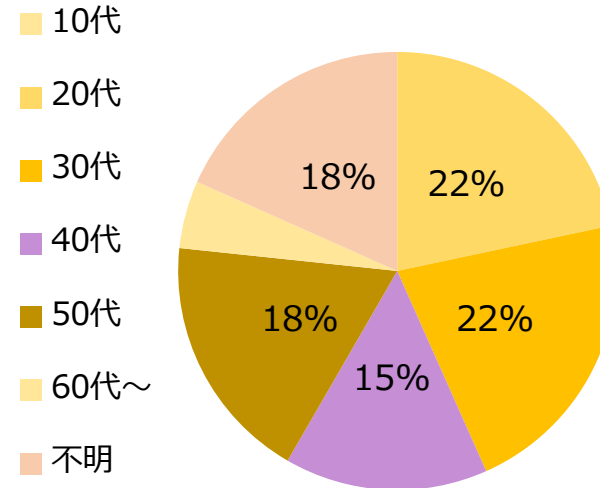


相談経験



相談件数60件
(陽性割合20%)

年齢



スタッフ内部研修会

スタッフ間の情報共有と意見交換を行い、チームで対応の質の向上を図った。また、相談対応及び、センター運営における知識、技術の向上を目的に、専門家を招き、各分野の基礎的な情報について学び、今後の対応や運営について検討のキッカケとした。

①「コミュニティセンターの場の在り方」について

実施日：2023年4月2日 講師：本間 隆之 氏（山梨県立大学）

実施内容：センターの場の在り方に関して考える手法を学び、意見交換を行なった。

②「HIV検査の基礎」について

実施日：2023年7月30日 講師：長島 真美 氏（健康安全研究センター）

実施内容：HIVや性感染症検査の基礎及び、東京都内での検査の現状などについて学び、検査について相談があった際の対応の参考とした。

③「PrEPユーザー調査・LASH調査から見える今後の啓発」について

実施日：2023年9月24日 講師：生島 嗣 氏（認定NPO法人ぷれいす東京）

実施内容：PrEPや薬物などのユーザー調査から、当事者視点で全体の背景を学び、実際の現場での情報提供に役立つ参考とした。

④「今からでも遅くないゼロから学ぶU=U」について

実施日：2023年10月15日 講師：大北 全俊 氏（滋賀医科大学）、奥井 裕斗 氏（HIVと共に生きる会社員）

実施内容：U=Uの概念や背景、またHIV陽性者の実際について学び、現状や課題についてより一層の理解を深め、改めて啓発や情報提供の仕方を見直す機会とした。

⑤「団体交流～ネットワーク構築」について

実施日：2023年11月5日 講師：加藤 歩 氏（NPO法人自立サポートセンターもやい事務局長）

実施内容：双方の新規スタッフ向けに各団体の活動紹介を行い、活動への理解を深め、スタッフ同士の交流を行い、団体同士のネットワーク構築の機会とした。

⑥「HIV陽性者対応」について

実施日：2024年3月17日 講師：星 竜也 氏（ダイバーシティキャリアセンター）

実施内容：ENDING AIDSの1つの要素として、HIVの差別・偏見の0を目指す為、今一度HIV陽性当事者の語りから現状の課題について学ぶ機会とした。



3

予防行動促進プログラム



HAVE A NICE SEX ファクトシート

プログラムの目的

情報が錯綜する中で、正しく情報を入手し、自分にあったものを選択することが難しい時代に、ヘルスリテラシー向上を応援するツールとして、日本におけるHIV/AIDSの状況や、HIVだけではない性感染症の情報、HIVの新常識について取り扱う。また、医療機関や検査場等と連携をとり、医療現場での情報周知にも役立つ内容とする。



内容

今知って欲しいこととして、これまでは「今のHIV/梅毒動向データ」「B型肝炎」「PrEP」「梅毒の検査と治療」について取り扱い、今年度は「HIVの定期検査」「HIVの新常識 U=U」をテーマに資材を作成した。またWEBサイト化をし、オンライン上でも閲覧可能とした。

結果

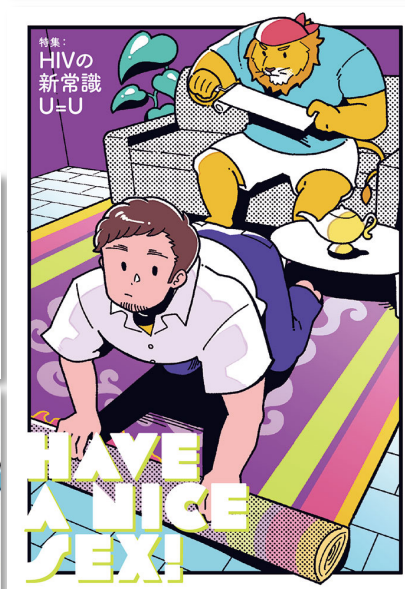
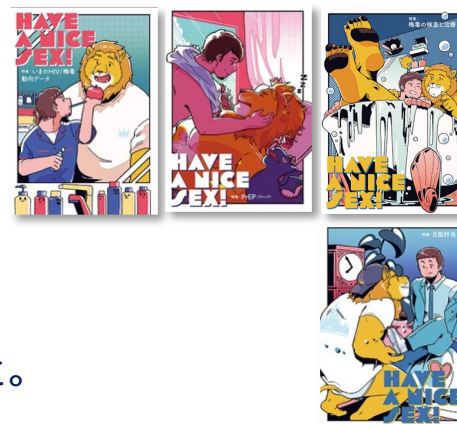
発行部数：5,000部

配布先：新宿二丁目のBAR&クラブ/164店舗

その他関係機関への発送

(特に都内クリニック等、医療機関へ発送)

※検査所や医療機関で配送希望が多数寄せられた。





3ZERO Campaign



プログラムの目的

2030年までにエイズの流行を終結させるという国連の目標に合わせ、日本の中で課題となっている“3つのゼロ”「差別・偏見のゼロ」「エイズ発症のゼロ」「新規HIV感染のゼロ」の達成を目指す。

内容

3つのゼロを意識したコンビネーションプリベンションツールを作成し、2023年12月1日(金)に、新宿二丁目にも隣接するアジア最大の歓楽街「歌舞伎町」に誕生したランドマークタワー「東急歌舞伎町タワー」内にある「ZERO TOKYO」にて、世界エイズデーに開催される日本最大級のゲイパーティ「AGARTHA」にて配布を行う。



結果

発行部数：1,000部

配布先：日本最大級のゲイパーティ「AGARTHA」

その他、AiSOTOPE LOUNGE「露出狂ナイト」や、日本エイズ学会@京都のNGOブースでも配布を行った。





4

Living Together

-HIVのリアリティを伝えるプログラム

差別偏見のゼロ

**UPDATE HIV
フロートへの参加**

**WE ARE
POSITIVE**

**WE'RE
ALREADY
LIVING
TOGETHER.**

HIVを持っている人も、
そうじゃない人も、
まだ分からない人も。
わたしたちはすでに、
いっしょに生きている。

**WE'RE ALREADY
LIVING TOGETHER.**

Living Together のど自慢

プログラムの目的

- ・ HIVを自分の事として、身近に捉える機会を提供する
- ・ 陽性者の声を可視化して、スティグマを低減し、誰もが暮らしやすい社会へ



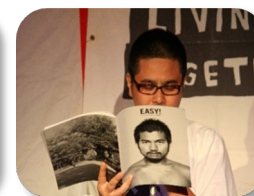
実施内容 HIV陽性者・周囲の人の手記の朗読+カラオケ

2023年5月14日(日) 第61回目実施@九州男

2023年8月13日(日) 第62回目実施@九州男

2023年11月26日(月) 第63回目実施@九州男

2024年2月25日(日) 第64回目実施@九州男



結果

- ・ イベントへの参加経験が、HIVの会話経験や検査行動につながっていることがわかった



他、LT関連イベント/出張等

展示「WE ARE POSITIVE - UPDATE HIV!」：
2023年12月1日(金)～14日(木) 新宿西口地下道
@新宿プロムナードギャラリー

共催：akta, 東京都保健医療局 協力：JaNP+, OUT
IN JAPANプロジェクト, ふれいす東京



TOKYO RAINBOW PRIDE 2023



東京レインボープライド 2023



4月23日(日)

「#updateHIV」フロート

NGOが協働して4年ぶりに出展。
HIV陽性のメンバーを先頭に250人が
一緒に歩きました。

参加団体：
akta、ぷれいす東京、JaNP+、
エイズ予防財団

協力：
ViiVヘルスケア、
ギリアド・サイエンシズほか





5

アウトリーチプログラム



目的：定期的に情報を届けてaktaの周知と普及啓発を行う



492ヶ所へ届ける、492ヶ所からの情報発信

アダルトデリバリー

プログラムの目的

性行為が活発に行われるスポットにおいて、セーフティーセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて情報をアップデートする機会を提供する。また情報を届けると共に、商業施設とのネットワークを構築する。

対象となる人

都内ハッテン場（性風俗店）の顧客と従業員。

実施内容

月に1回、都内ハッテン場（性風俗店）に、性に関する様々なアイデアを配達するアウトリーチ活動。



資材発送

プログラムの目的

直接のアウトリーチができていないゲイバーやハッテン場等の商業施設を含む、全国のMSMを取り巻く関係機関に対し、資材の送付を行う。

実施内容

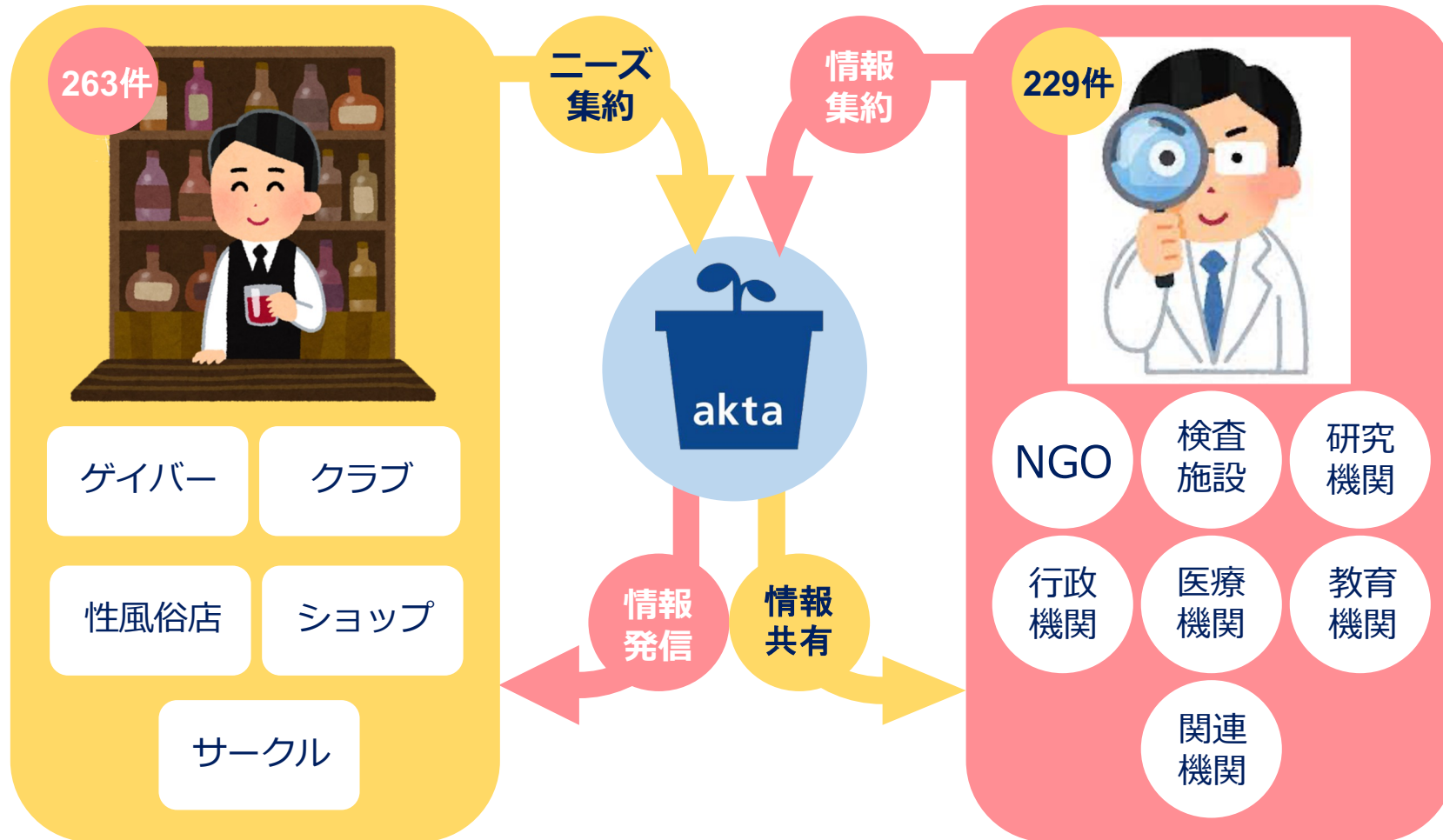
月に1回、下記関係機関へ資材の発送を行う。

行政機関 16件 医療機関 46件
保健所 54件 教育機関 18件 研究機関 7件
HIV・セクシュアリティ関連CBO 32件
その他（企業・個人等） 56件

啓発普及の基点（連携のハブ）

ゲイコミュニティとの連携

HIV関連機関との連携





デリバリーボーイズ



プログラムの目的

セーフターセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて話す機会を提供する。また情報を届けると共に、街や店内の雰囲気や反応をキャッチしてくる。

対象となる人

新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブの顧客と従業員。
また、参加するボランティアスタッフも対象となる。



実施内容

毎週金曜日に、お揃いのユニフォームを着て、新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブに、コンドームや性の健康に関する様々なアイデアを配達するアウトリーチ活動。

結果

実施日時：毎週金曜日(第三金曜日を除く)の20時～22時

登録者数：140名(内5～10名前後/回のスタッフが参加)

配布店舗数：164店舗

コンドーム配布数：**年間35,383個** 1回約700～1500個

稼働日数：36日

今年度作成した、コンドームパッケージ





上野・浅草 アウトリーチ



プログラムの目的

セーフアセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて話す機会を提供する。また情報を届けると共に、東東京地域の現状や課題を把握する。

対象となる人

上野・浅草を中心としたゲイバーの顧客と従業員。



実施内容

月に1回、上野・浅草を中心としたゲイバーに、コンドームや性の健康に関する様々なアイデアを配達するアウトリーチ活動。



結果

実施日時：月に1回(基本木曜日)の16時～22時
配布スタッフ：2名(akta常勤スタッフ+臨時スタッフ)
配布店舗数：上野36店舗／浅草10店舗
コンドーム配布数：**年間1,800個** 1回約160個強
稼働日数：11日※2月は中止



akta monthly schedule



プログラムの目的

community center aktaの周知と、コンドーム設置協力店舗へのインタビュー記事を通し、活動をはじめ、HIVや性感染症へのイメージや二丁目のコミュニティ感覚について考えるキッカケづくりとして発信するフリーペーパー。

紙面版

2023年4月号～2024年3月号までを発行した。
新宿地域のインタビューだけでなく、アウトリーチを再開した上野・浅草地域のインタビューも行った！インタビューコーナーは今年度で一旦終了！



ウェブ版

紙面版で載せきれなかった内容をウェブ版にて公開。
写真も加わり、より内容を深く掘り下げられます。



結果

発行部数：各号5000部 発行、配布

配布先：新宿二丁目のBAR&クラブ/164店舗
その他関係機関への発送

インタビュー動画

monthly scheduleに掲載バーママのインタビューが動画でも視聴可能に！人気のママさんによるaktaやHIVのイメージ、お店の情報も収録！

akta YouTube CHANNEL

プログラムの目的

ICTを活かした啓発普及を強化して、コミュニティセンターを利用しない層や、コミュニティセンターのない地域に向けて発信する。性行動の活発な特に1980～2000年代出生世代のMSMに情報を届けるためには、オンラインと、対面などリアル両方のアプローチが求められる。そのため、ネットでの動画を利用した啓発のさらなる強化を試行する。

内容 動画を制作して、定期的にaktaの活動紹介とHIV・セクシュアルヘルスの情報発信を、YouTube aktaオフィシャルチャンネルから発信！



akta大学

大学の講義形式で、トピックについてポイント解説を行う。



3分×3分

aktaスタッフが、視聴者の疑問に3分以内に回答するコーナー。



akta information

aktaが作成している資料やプログラム等について、紹介するコーナー。



コラボ企画

新宿二丁目の情報を世界に発信しているYouTuber「TOKYO BTM」とコラボ！この動画をキッカケに登録者数がグンと伸びた！

aktaの時間

日常生活の中で性に関して思う正解のないアレコレをトークして、この先の日々を楽しく過ごしていけるよう模索するラジオコーナー型の番組。



結果 総視聴回数：**54,535回**

チャンネル登録者数：**1,282人**（前年度より268人増）



6

ウェブサイトを用いた啓発

akta.jp ~WEB上でのaktaの入り口

プログラムの目的

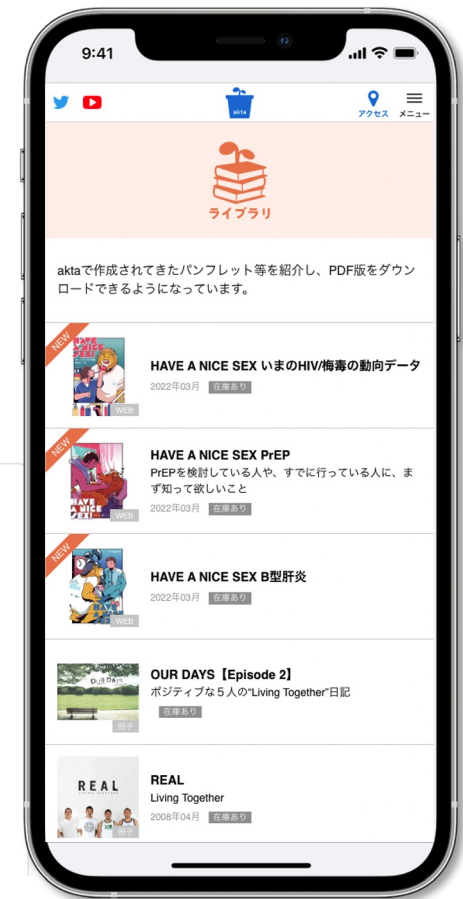
ゲイ商業施設にアクセスしない層や、ネット利用に止まる若年層をセンターへ集客するため、ホームページを運営して活動の見える化と啓発・周知を行う。

内容

Community center aktaと、そのプログラムを紹介するサイト。コロナ禍の影響を受け、センターに来られない人のために「ライブラリ」として、サイト上での資料のアーカイブ閲覧や受け取りの方法を整備した。

結果

ユーザー数：**Google analytics**の仕様が年度途中で変更になったため正確な件数を現在解析中。



HIVマップ

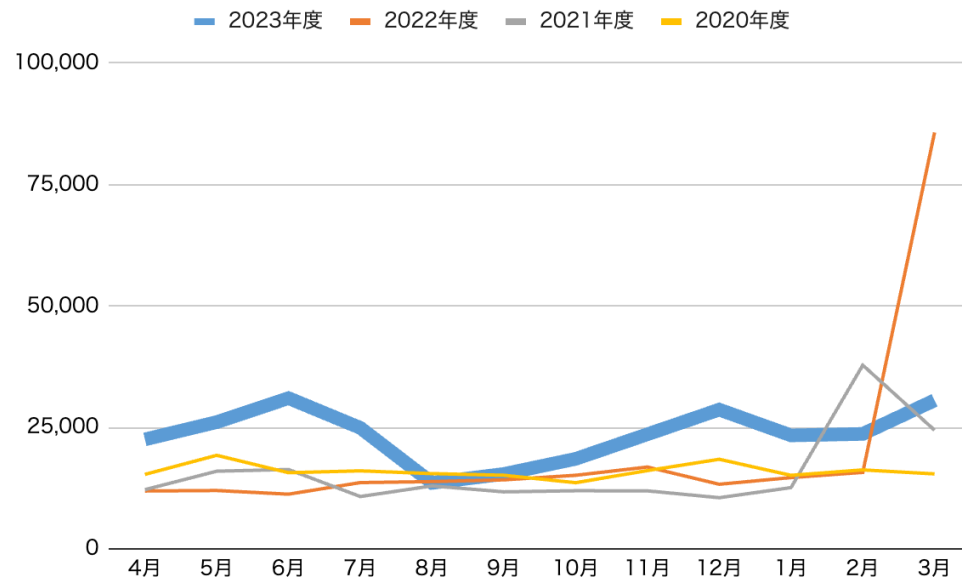
すぐに役立つHIVの情報サイト



プログラムの目的

主にMSMに向けた相談支援として位置づけたサイトを運営。総合情報サイトとして、支援情報、検査情報、基礎知識、統計情報などについて網羅する。

内容 各種コンテンツの情報更新に合わせ、HIV予防の方法の多様化（PrEP、U=Uなど）に合わせた啓発やメッセージ・コンテンツの発信を行う。2022年度に開始した、コンパクトに情報をまとめた「ポスト」の更新を月に2回行い、出会い系アプリのニュース欄を活用した広報を行った。エムポックス研究班とともに、緊急時の啓発も取り組んだ。



来訪者数281,955で、前年の1.18倍

あんしんHIV検査
サーチ
首都圏MSM向け検査
情報提供

HIVお役立ちナビ
予防啓発/検査/治療/
支援などを紹介するリ
ソース集

HIV/エイズガイド
HIVの基礎知識をマン
ガとテキストで紹介

HIVmap POST
HIVや性感染症など
MSMの性の健康譲歩
をブログ形式で紹介





7

HIV検査普及プログラム

エイズ発症のゼロ

**ヤローページ
の発行**



HIVcheck.jp

**デジタルディスペンサー
の開発**

ヤローページ

上野・浅草版



プログラムの目的

MSMが安心して検査を受けることができる検査環境を整備した上で、東京都内の検査施設等の検査情報とゲイタウンの商業施設情報を同時に案内する資料を開発することで幅広い層に周知し、HIV感染予防およびエイズ発症予防を喚起し自主的な検査行動を促進する。またコミュニティとの連携を強化し、二丁目のコミュニティを応援する。



内容

前回2016年に上野浅草版を発行後、8年ぶりの発行となる「上野浅草版」として、上野浅草の商業施設情報と一緒に、HIVマップの保健所・クリニックを紹介。梅毒情報を専門家(今村顕史先生)にインタビュー

結果

発行部数：5,500部

配布先：上野・浅草のBAR&クラブ/46店舗
新宿二丁目のBAR&クラブ/164店舗
その他関係機関への発送

検査環境の整備と検査行動の促進 保健師（HIV検査担当者）研修会

1都3県の研修をすべて対面で、ふれいす東京、SHIP等の協力を得ながら実施。akta若手スタッフの研修参加を広げた。

東京都

東京都保健医療局
感染症対策部
防疫課エイズ対策担当

2023年11月10日実施
26名参加

神奈川県

神奈川県保健福祉局
健康医療部健康危機管理課
感染対策グループ

2023年12月18日実施
5名参加

千葉県

千葉県保健福祉部
疾病対策課
感染対策室

2023年8月22日実施
24名参加

埼玉県

埼玉県保健医療部
保健医療政策課 感染症・
新型インフルエンザ対策担当

2023年8月7日実施
22名参加

主な研修内容

講義：各自治体の現状報告／性の多様性／地域での効果的な啓発方法について

ワークショップ①：reading work／保健所の情報交換／課題の確認

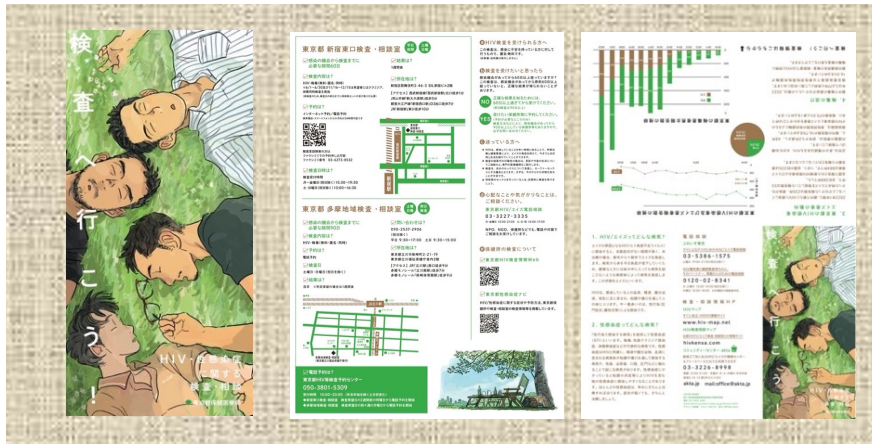
ワークショップ②：模擬対応／セクシュアリティに配慮した相談の実際／検査相談に利用できる資材やNPOの活動紹介

MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

行政機関と連携した検査広報

東京都

各保健所の個別情報→ウェブサイト紹介
都の検査施設のみ紹介、4000部作成・配布



新宿区保健所

ゲイのためのエイズ・性感染症検査



みなと保健所

新橋あんしん検査



千葉県

MSM向け休日検査→ウェブバナー広報
受検者へ配布する情報カード、コンドーム、3000部作成・配布



コミュニティ主導での 郵送検査キット配布の課題

【受療確認】

郵送検査のスクリーニング陽性の結果での医療機関側の受け容れが施設ごとに異なる。また、そもそもスクリーニング陽性となった者のその後の把握が難しい。

【制度】

郵送検査キットは医療機器(レベル3)にあたるため、**薬機法の対象となり、**
管理者として医療資格者(医師・歯科医師・薬剤師)等が必要。 研究枠組みではなく社会実装の場合に、管理者のいない場所での配布できない。

【運営】

CBOの活動にとって、現状のモデルでは、ヒト・予算・時間などのリソースが大きくなるため、持続可能性に課題がある。

2023年 HIVcheck.jp 3.0

(薬局・ドラッグストアチェーンでの試行)

【内容】

薬機法に対応するため、薬局の中でディスペンサーを用いて検査キットの配布モデルを試行。

行動調査および決済はオンライン上で完了したうえで、身近な薬局・ドラッグストアで受け取りのモデルを試行する。

【現在の状況】

- 薬剤師会、ドラッグストアとの調整
- 渋谷区、新宿区保健所とディスペンサーによる販売・配布の交渉
- TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE 2024での試行準備

「HIVcheck.jp」は、特定非営利活動法人aktaが「ギリアドHIV検査推進寄付プログラム」の助成を受け行う事業です。

HIVcheck.jp





8

調査・研究

新規感染のゼロ
SUMMER BLAST
での調査



エムボックスに関するハイリスク層への効果的な啓発及び 診療・感染管理指針の改訂のための研究 「MSMコミュニティに対する普及啓発に関する研究」



mpox(サル痘)に関するMSMコミュニティに対する普及啓発のロジックモデル

リスコミ円卓会議

- 厚生労働省
- 東京都福祉保健局
- 自治体・保健所
- Niid
- NCGM(DCC・ACC)
- akta(岩橋恒太)
- MASH大阪
- ぶれいす東京
- CEPR(Niid)

本分担研究メンバー

- 駒込病院 今村顕史
- 名古屋市立大学 金子典代
- 山梨県立大学 本間隆之

協力

MSMを対象としたエイズ・STI対策のネットワーク

- MSM all Japan.(全国6か所のコミュニティセンターとNGOネットワーク)
- 厚労科研 MSM研究班(研究代表 塩野徳史)
- ウェブサイトHIVマップ(厚労省委託事業)

2022年度(海老原班MSM啓発分担(akta岩橋))実施内容

- MSMおよびHIV陽性者を対象としたmpox啓発資材・ウェブサイトの開発
- スティグマに配慮しつつ、リスク層への効果的な啓発方法の検討(MSM向け性風俗店の聞き取り、アウトリーチ試行)
- mpoxに関するコミュニティと行政、医療・専門機関の連携会議の実施
- 全国のMSMを対象としたmpoxの行動・意識オンライン調査

2023年度(中村班MSM啓発分担(akta岩橋))計画内容

- MSMおよびHIV陽性者を対象としたmpox啓発資材・ウェブサイトの開発と拡充
- リスク層への効果的な啓発方法の拡充の検討(従来のコミュニティセンターakta基点のアウトリーチから東京の新宿地域外への拡大など)
- mpoxの対策および研究成果共有のためのコミュニティと行政、医療・専門機関の連携会議の実施
- MSM対象mpoxの行動・意識オンライン調査の解析および発表

2022年度の取り組みを元に
2023年度に活動を展開

MSMを対象とする効果的なサル痘対策による、国内でのmpox流行の終結への寄与

アウト
プット

エイズ対策とmpox対策をモデルに、MSMにおける新たなSTI・感染症流行時に即応できるコミュニティと行政、医療・専門機関、学会等の連携体制の構築

アウト
カム

2023年7月
新宿二丁目でのクラブイベントに集まる
ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした

コンビネーション予防実態 把握のための行動科学調査



- 2023年7月15日に新宿二丁目で行われたSUMMER BLASTイベントで受付横にて、aktaがブースを出展して、16時～23時までのイベント参加者全員にリクルートを行った。
- 参加同意をしてくれた方の自分のスマートフォンで回答してもらったアンケートで、回答時間は約5分間。
- 回答が完了した方には、イベント会場で使用できるチケット(800円分)を謝礼としてお渡しした。

厚生労働省科学研究費補助金「コミュニティセンターを活用したMSMに対するHIV感染症の有効な普及啓発方法に関する研究」の研究の一環として行われ、名古屋市立大学看護学部の倫理審査を得ている。

akta×SUMMER BLAST アンケート2023の結果報告!



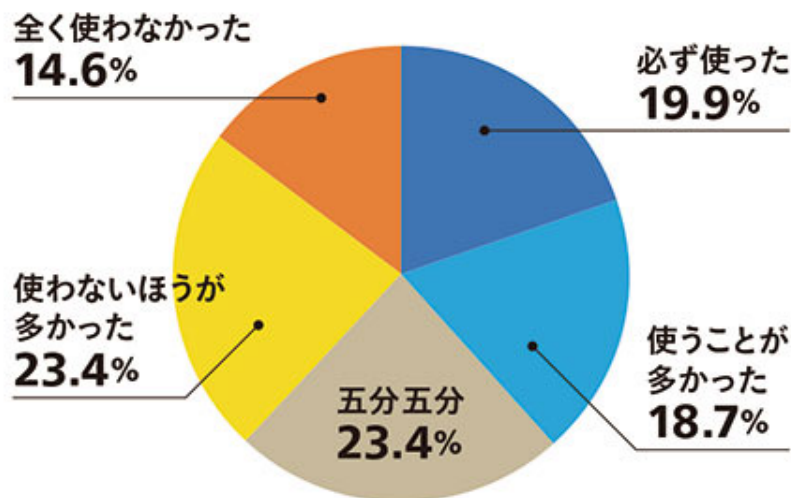
昨年2023年、来場者に対して、性の健康に関するアンケートを実施しました。

有効回答は632人、回答者の平均年齢は35.4歳。東京都居住者が59%、外国籍の方も13%でした。

1 過去6か月に男性とアナルセックスを行った人のうち、**コンドームを毎回使った方は19.9%**でした。

過去6か月の男性とのアナルセックス時の コンドーム使用状況

(アナルセックス経験者のみ対象 n=321)

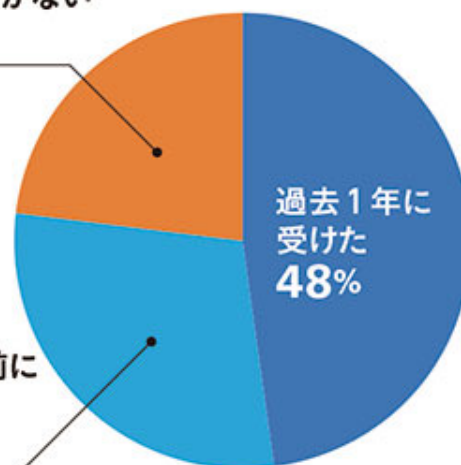


2 過去6か月に男性とセックスを行った人において、**過去1年にHIV検査を受けた人は48%**でした。検査を受ける頻度が高くなっています。

HIV検査の受検状況 (n=448)

生涯で
受けたことがない
23%

1年以上前に
受けた
29%



akta×SUMMER BLAST アンケート2023の結果報告!

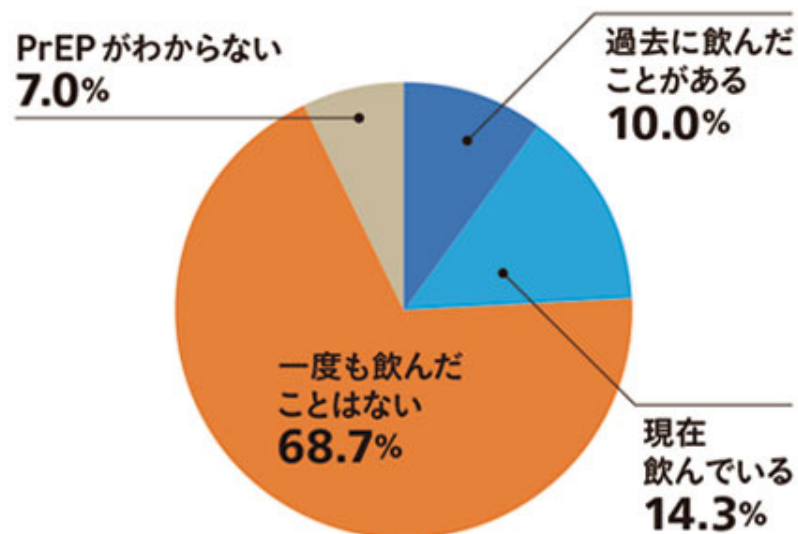


昨年2023年、来場者に対して、性の健康に関するアンケートを実施しました。

有効回答は632人、回答者の平均年齢は35.4歳。東京都居住者が59%、外国籍の方も13%でした。

3 PrEPの服用経験は、過去に飲んだことがある人が10%、現在飲んでいる方が14%でした。

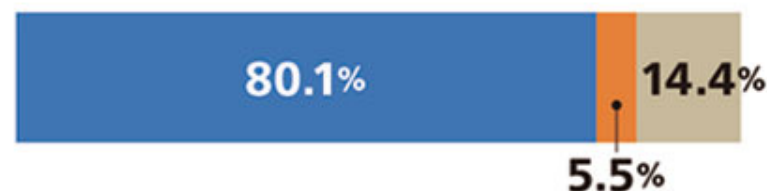
PrEP (HIV曝露前予防)の服用経験
(男性とのセックス経験者のみ対象 n=460)



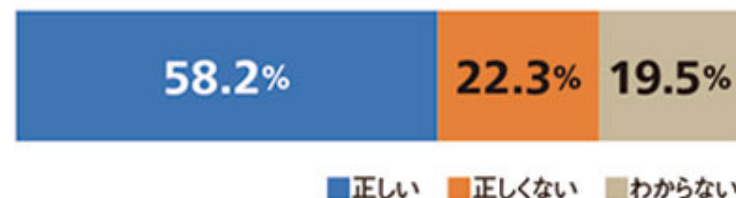
4 HIVの知識に関して、80%の人がPrEPを知っていて、U=Uについて58%が認知していました。

PrEP, U=Uの認知 (n=632)

HIVに感染していない人が、抗HIV薬を内服して、HIVの感染リスクを減らすPrEP(プレップ)という方法がある



HIVに感染していても、抗HIV薬によって血液中のウイルスが検出できないレベルになっている人は、セックスパートナーにHIVを感染させることはない



■正しい ■正しくない ■わからない

— 2023年度のまとめ —



3つのゼロ（新規感染のゼロ・エイズ発症のゼロ・差別偏見のゼロ）達成に向けて取り組んだプログラム。

新規感染のゼロ

SUMMER BLAST

での調査

ANSWER
632人回答



エイズ発症のゼロ

ヤローページの発行

DELIVER
5500部配布

デジタルディスパンサー
HIVcheck.jp の開発



TEST
準備完了!!

差別偏見のゼロ

UPDATE HIV

フロートへの参加

WALK
250人参加

WE ARE
POSITIVE

AGARTHA 3ゼロキャンペーン

3ZERO
700人配布

